

夏期全国研修会 「はじめのいっぽ2025」

初回相談・ことばの検査

九品仏小学校 大橋 陽平

今日の流れ

1. はじめに
2. インテーク・ことばの検査について
3. ことばの力をみるために
4. 事例をもとに
5. おわりに

1. はじめに

はじめに

子どもとの初めての出会いの場面



はじめに

いきなり分析的にみることは難しい
子どもの様子を見ただけでは、根拠をもった見立てはできない



言語の検査やインテーク検査がある



はじめに

その前に・・・、

- 子どもの大まかを捉える力
- 子どもの言葉の課題に、敏感になること
- 子どもの言葉に引っかかることができること

それが見立ての入り口
ことばの教室の教員としての専門性



はじめに

2枚の写真を見てどう感じましたか？

例えば・・・

人形の数は言葉の数

人形の種類は言葉の概念、

整理されているかは、言葉が適切に頭の引き出しにしまわれているか、

ラベリングがされているか

と捉えてみる。

ことばの課題をイメージできると良い。

※箱庭の読み取り方ではない
子供の言語の課題を捉える時のイメージ

はじめに

言語は目に見えない。



インテーク検査や精密検査をする

でも、検査をする場合、何をしたらいいか迷う

子どもの実態を把握
するためには何をす
ればいいのか？



この子にどんな指導
が合うのだろうか？

どんな検査をとつた
らいいのだろうか？

はじめに

大前提として

- 検査を手あたり次第にやらない 安易に検査を取らない
- 検査することは子どもに負担を強いるという意識をもつこと
(教員側は安心だが)
- 検査結果や数値だけで判断しないこと
- 検査を取ることが子どものメリットになっているかを考えること



まず子供を理解しようとしましょう

2. インテーク・ ことばの検査について

2. インテーク・ことばの検査について

世田谷区のインテークの紹介

実施項目	見ている力、実施の意味	聞き	読む	書く
I 聴力	○聴力	○	○	○
II 質問応答①	○会話能力 語彙、構文、語用、コミュニケーション ○雰囲気 ○ラポールの形成 ○吃音や発音の大まかな様子	○	○	○
III 読解	○物語る力 ○状況理解 ○想像力 ○構文	○	○	○
IV 質問応答②	○質問への正対 ○仮定の質問 ○イメージする力	○	○	○
V 絵の類推/ITPA	○視覚的な情報を見て、関連付ける力	○	○	○
VI ことばの類推/ITPA	○聴覚的に聞いたことを基に言葉に関連付ける力	○	○	○
VII 教師式リーディング	○語彙 ○文法	○	○	○
VIII 構音検査	○構音の状態 ○単語レベルでの吃音の状態 ○構の名前の想起	○		
IX 吃音検査	○吃音の状態		○	

2. インテーク・ことばの検査について

検査の紹介

○ LCSA（学齢版言語・コミュニケーション発達スケール）

言語やコミュニケーションの面で困難を抱えている子どもたちに、言語の中でもどんなことが上手い/下手なのかをより詳細に具体的に調べるために実施する検査

口頭の指示が理解しにくいのか、伝えたいことを表現することに苦しさがあるのか、読み書きに必要な音の意識に苦手があるのか、心情を表す言葉の知識が不足しているのか、など様々な言語のスキルを客観的に評価できる

2. インテーク・ことばの検査について

○ ITPA（言語学習能力診断検査）

子供の言語能力の内、伝達と理解に関する能力の測定を行うことを目的としている検査

全体的な発達レベルだけではなく、個人内差を測定することが可能で、子供の言語学習能力を多面的に捉えることが出来るといった特徴がある

現在は絶版になっている古い検査で出てくる言葉や絵が今に適さないものもある

フリン効果の影響を考える必要もある

ただし、感覚としては、検査の結果と児童の実態が概ね合っているようには感じる

東京都のことばの教室では今でも使われていることが多い

2. インテーク・ことばの検査について

○ PVT-R（絵画語い発達検査）

基本的な語いの理解力の発達度を短時間で測定する検査

注意点としては、この検査の点数が良いからと言って語彙力があるかと言えらるかどうかは分からない

聞かれたことに対して一対一対応で答えられても、言葉に広がりがない場合がある

○ STRAW-R（標準読み書きスクリーニング検査）

読み書きの正確性と流暢性を調べる検査

ひらがな・カタカナ・漢字をどのくらい正しく読めるのか、どのくらい速く流暢に読めるのか、どのくらい書けるのか、等が評価できる

自動化、デコーディングの力を計る

2. インテーク・ことばの検査について

○ 教研式リーディングテスト

読みの基本的な力を、「読字力」「語彙力」「文法力」「読解力」の4つの下位検査で測定する検査

○ 質問応答関係検査

「日常的質問」、「なぜなぜ」、「仮定」、「類概念」など10の課題で構成される検査
会話での表現力や理解力をみることができる

○ J-COSS（日本語理解テスト）

日本語の語彙力・文法力（主に文法力）をみることができる検査

2. インテーク・ことばの検査について

○ SCTAW（標準抽象語理解力検査）

抽象的な言葉の理解力を測るための言語理解力検査

○ URAWSS（小中学生の読み書きの理解）

小中学生の読み書き速度を評価し、読み書きが苦手な子ども達に支援技術等を活用した支援を行うために作成された検査

○ CARD（包括的領域別読み能力検査）

読みのつまずきの原因を把握し、支援が必要な子どもをピックアップし、つまずきを抱える子どもの支援に向けてその状態を把握する検査

○ ELC（音読・音韻処理能力簡易スクリーニング検査）

読み書き困難児のための音読・音韻処理能力簡易スクリーニング検査

3. ことばの力をみるために

3. ことばの力をみるために

ここまで検査についてお話ししてきましたが・・・

- 子どもの大まかを捉える力
- 子どもの言葉の課題に、敏感になること
- 子どもの言葉に引かかることができること



記録、逐語録、観点別の実態把握

3. ことばの力をみるために

○記録

- ・子どものことばや行動などを具体的に書く
子供は何と言ったのか、それに対して自分が何と返したのか、どう働きかけたのか、その結果どうなったのかを書くことと良い
- ・感じたことをそのまま書く
誰かに見せるものではないから、整理して書く必要はないあくまで、子供の実態を捉えるためのツールであり、自分の思考をまとめるためのツールと考える
- ・書いていくうちに慣れていき、それが見立ての力につながる
子供の言動に引かれることができるようになっていく

4/16	会話・ 今年のあて・ ことばの整理・ 遊び・ グループ	今日は、新しい友達とグループだったので、自己紹介を考えた。いくつか項目を自分で上げることができた。話す順番を決めるときに、お前の後、好きなものをはじめに話して、そのあと学校学年を言うといった。遊び得たものを基に練習してみると「何か返さない」と言い、しつくりとしない様子があった。一緒に考えたが、いい考えが浮かばず、困っている様子だった。そこで、足りないんじやなくて順番なんじやないやと言うと、学校学年を前に持ってきた。それを見ながら練習するとうまくできたと感じる事ができた。今年の目標では、割り算ができるようになりたいと言った。会話では、春休みに旅行に行つたこと、5月に遠足や長崎旅行があることなどを話してくれた。新しい学年は良いクラスと言っていた。担任の先生は優しくておもしろいそう。グループではハダタタの朝食をやった。帰りがけに、保護者から、最近いつにもまして動きが多いという話があった。環境の変化などによる時間的なものかもしれないこと、今後の見通し、行動を保障してあげることが大切であることなどを伝えた。
4/23	会話・ ことば・ 文作り・ 遊び・ グループ	次回の目標を書いた時に「4月ぎりぎり」という言葉が出てきた。「ぎりぎり」の使い方や意味などについて話をした。会話では、遠足の事を話してくれた。いつ、どこへ行くのかを話すことができた。何をするかは、話をしながら徐々に話している様子だった。それでも大抵からは逃れずに話すことができていた。「お弁当は何を入れてほしい？」と聞いたところ、しばらく考えた後「わかんない」と言った。「何が入ってたらうれしい？」と聞くと、しばらく考えた後「唐揚げ」と答えた。「他には？」と聞くと答えられなかったで、ポテトサラダを例に出すと「ポテト」と答えた。例のポテトを聞くが、なかなか上手に答えられなかった。言葉は、絵に描かれた言葉で表現することができた。

5/21	会話・ 吃音について・ 遊び	会話では、運動会の話と6年生に手紙をもらってうれしかった話をしてくれた。連絡帳にことばについて書かれていたので、聞いてみるが、その話題をやや避けている感じ。まだそこまでオープンにはなれないかも。無言に陥っていき、どうしても良いんじやありません。11匹の猫の読み聞かせの時も落ちつかなかった。注意が散漫になり体が動いてしまう感じ。遊びでも、いろいろなことが気になり、おもちゃを出してはやめだしてはやめを繰り返す。特性もあるが、言葉についての話題に触れたことに対する不安が大きかったのかも。グループの友達との遊びの時はルールに従ってやっていた。個別の場では特にこちらでコントロールせずに見守りたい。
5/28	会話・ 絵本・ 遊び	今日は来賓するすぐに「動物園に行った」と嬉しそうに報告してくれた。今日は開校記念日でお休みだったようで、お母さんとお兄ちゃんと言ったとのこと。パンダが見れたこと、ゴリラが本に登っていたことなどを話してくれた。運動会では、ダンスが大成したこと、50m走が2位だったこと、赤組が勝ったことなどを教えてくれた。今日の予定を書くところからおふざけモードに入ることが、今はそれでいい。とことんまで付き合っておけることで、ことばの教室が安心できる環境になり、自然といろいろなことを話してくれるのではないかなと思う。また、行動自体も落ち着いてくるはず。絵本は、ネズミ君が好きだった。ネズミ君は絵をよく見えた。こちらの絵にも反応していた。遊びは、ハンバー

3. ことばの力をみるために

○逐語録

- ・実態把握が難しい子にとってみると良い
大変なので、毎回書く必要はないが、子どもの課題を見立てる材料になる
- ・自分の指導の振り返りになる
子供の言葉に対し、何と返しているか。意図的な返しをしているか
- ・教員が話すぎているないか
質問しすぎて、尋問のようになっていないか
一問一答のようになってしまおうと言語が育っていないと感じる
また、発話意欲も下がる傾向がある

3. ことばの力をみるために

- ・子どもの話をわかろうとしすぎていないか
わかってあげることは良いことだが、言葉を育てるためにあえて
わかってあげないということも必要
子どもが自分で考えて紡ぐ言葉を大切にしたい
オープンクエスションをあえてしてみるのも一つ

3. ことばの力をみるために

- ・子どもに考えさせたり、言語を伸ばすための意図的な質問、
コミュニケーションをしているか
インテークや実態把握、見立ての時には大事になってくる
教員のカラー、性格もあるので、全員が同じ質問やコミュニケーション
をする必要はない
自分なりのコミュニケーションで子供と向き合えばいい
- ・他の教員と見合うことで、自分が気づけなかったことがわかるかも

3. ことばの力をみるために

○観点別の実態把握

- ・子どもの実態をつかむために有効
- ・子どもについて感じたことや考えたこと、また記録や逐語録、
雑多なメモなどを整理することで、子どもの実態が見えてくる
- ・自分が見落としていた視点に気づくことができる
- ・子どもを見るときにどこを見ればいいのか明確になる

3. ことばの力をみるために

初回相談の時に子供を見るポイントは？
使える検査は？
子どもの事を知りたいから検査をする

出発点として
それでいい？

大切なことは何？

これまで話してきたことが、

見立てをするうえで大切な専門性
その土台があって初めて検査につながる
適切な検査を選ぶことができる

3. ことばの力をみるために

具体的な検査キットだけでなく、

子どもを見る先生たちの眼、
子どもの言葉に引っかかるセンス

検査の一部だという
捉え方も大事



子供との初めての出会いの時に
見るべきポイントをつかむことにつながり、
遠回りかもしれないけど、最初の問いにつながる

4. 事例をもとに

4. 事例をもとに

事例を映像で見ながら、

「児童に対し、どういう印象をもったか
どこがポイントか
どんな課題があるか

みなさんで考えてみましょう

5. おわりに

5. おわりに

○見立ての引き出しを増やしましょう

○今やっていることは、いつか花開く

○話したい、伝えたいを大切に

○子どもとの時間を、大切に、楽しみましょう

ご清聴ありがとうございました。